

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：35404

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830119

研究課題名(和文) 民主主義が経済発展に与える影響に関する理論および実証研究

研究課題名(英文) The Effects of Democracy on Economic Development

研究代表者

岡田 啓介 (Okada, Keisuke)

広島修道大学・人間環境学部・助教

研究者番号：70633064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、経済発展における民主主義や制度的要素の役割に着目し、主に次の3つの研究テーマに取り組んだ。(1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給(特に健康)に与える影響、(2) 金融グローバル化と制度的要素が国際資本移動に与える影響、(3) 汚職と金融グローバル化が経済成長に与える影響、について研究を行った。民主主義や制度的要素が、経済成長率だけではなく、公共財供給など広い意味での経済発展に寄与することを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We have focused on the role of democracy and institutional factors in economic development and have mainly studied the following three research topics: (1) the effects of ethnic diversity and political regimes on public goods provision, particularly health conditions, (2) the effects of financial openness and institutions on international capital flows, and (3) the effects of corruption and financial globalization on economic growth. We find that democracy and institutional factors contribute to not only economic growth but also economic development in a broad sense, such as public good provision.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：民主主義 制度 経済発展

1. 研究開始当初の背景

経済発展における民主主義の役割については、これまで多くの経済学者、政治学者によって研究されてきた。主な研究の方向性は、民主主義が経済成長に寄与するかどうかであった。先行研究の多くは、経済発展の指標として経済成長率を使用しているが、経済発展とは多様な側面があり、経済成長率は経済発展の一部のみを捉えているに過ぎない。そこで、本研究課題では経済成長率だけではなく、健康、教育、制度の質など経済発展をより広く捉え、それらに対する民主主義や制度的要素の役割を研究することにした。

2. 研究の目的

上記の研究状況を背景として、本研究課題では、具体的に次の3つの研究テーマに取り組んだ。

(1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給に与える影響

本研究では、民族構成、政治体制、及び公共財供給の関係について考察している。民族構成、政治体制がそれぞれ公共財供給にどのような影響を及ぼすのかについては先行研究が存在するが、両者を同時に考慮して公共財供給の要因を検証している論文は少ない。そこで、本研究では、政治体制が異なる場合、民族構成が公共財供給に与える影響が異なる可能性を検討した。

(2) 金融グローバル化と制度的要素が国際資本移動に与える影響

本研究では、国際的な資本移動の決定要因を実証的に検証している。基本的な新古典派モデルが示唆するのは、先進国から開発途上国への国際的な資本移動であるが、現実には、それとは逆の方向に資本は移動している。この現象は Lucas Paradox と呼ばれ、様々な原因が指摘されてきた。本研究では、Lucas Paradox の要因として、金融のグローバル化（開放度）と制度の質に着目した実証研究を行っている。

(3) 汚職と金融グローバル化が経済成長に与える影響

本研究では、金融グローバル化が経済成長に与える影響が、汚職の程度に応じて異なることを理論的・実証的に考察している。汚職と金融グローバル化がそれぞれ経済成長にどのような効果を及ぼすのかについては、先行研究が存在するが、これらを同時に考慮した

ものは少ない。近年、金融のグローバル化を進めることが経済成長を促進するか否かについて活発な政策的議論が行われており、利点と欠点の双方が指摘されている。本研究では、このような議論に経済学的な意味を与えることを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給に与える影響

本研究では、理論モデルを構築した後、そこから得られた結果をデータを利用して実証的に検証している。理論分析では、Citizen-candidate model (市民候補者モデル) に基づき、政策の選好に異質性のある個人を仮定し、民主制・独裁制の下で、民族的多様性が政治家・政策の選択にどのような影響を及ぼすのかを考察している。実証分析では、1960 - 2010 年の 157 カ国のパネルデータを用いて、公共財の質として健康の指標（乳児・乳幼児死亡率、平均寿命）を使用し、理論分析の結果が成立するか否かを検証している。

(2) 金融グローバル化と制度的要素が国際資本移動に与える影響

本研究では、Lucas Paradox の要因として、金融のグローバル化（開放度）と制度の質に着目した実証研究を行っている。金融グローバル化に着目した理由は、図 1 が示すように、金融の開放度が世界的に二極化しているからである。また、制度の質については、図 2 のようにばらつきがあることが知られている。本研究では、1985 - 2009 年の 112 カ国のパネルデータを用いた。推定では、国際資本移動が金融グローバル化や制度的要素に影響を及ぼす逆因果性に由来する内生性に対処するため、System Generalized method of moments (GMM) 推定を使用した。更に、制度的要素の総合的な指標だけではなく、法の支配、社会経済的条件など制度の中身をより詳細に分類した分析を行い、国際資本移動に与える影響を検証している。

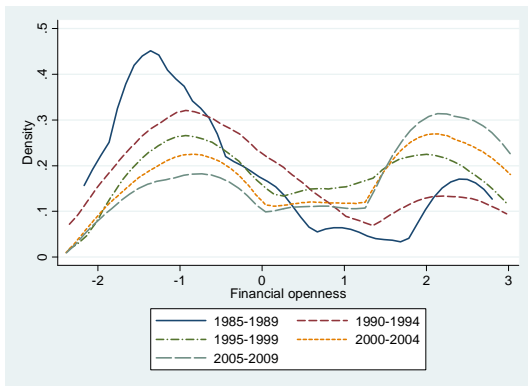


図 1：金融グローバル化の分布

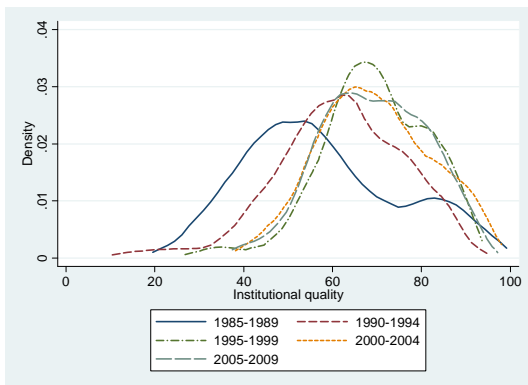


図 2：制度の質の分布

(3) 汚職と金融グローバル化が経済成長に与える影響

本研究では、汚職を明示的に組み込んだ内生的成長モデルを構築している。更に、閉鎖経済と開放経済（2カ国モデル）を想定し、金融のグローバル化が汚職の水準に応じて、どのように変化するのかを考察している。その後、理論モデルから導かれた結果を 1985 - 2009 年の 109 カ国のデータを使用して検証している。推定に際しては、内生性に対処するため、System GMM 推定を使用した。

4. 研究成果

(1) 民族的多様性と政治体制が公共財供給に与える影響

理論分析では、(i) 支配的な民族が存在する場合の民主制、(ii) 支配的な民族が存在しない場合の民主制、(iii) 独裁制、の 3 つの状況を想定した。(i) と (iii) では、既存研究と同様に、民族的多様性と公共財の質の間に負の関係がある。一方で、(ii) では、民族的多様性と公共財の関係が非単調であり、民族的多様性が小さい場合、公共財供給が多く、その後、民族多様性が上昇するにつれて、公共財供給が減少するが、ある閾値以降では増加するという結果を導いた。実証分析では、

157 カ国のデータを用いて、公共財の質として健康の指標を使用し、理論分析の結果が成立することを明らかにした。研究成果は論文にまとめられ、現在、国際学術雑誌に投稿中である。

(2) 金融グローバル化と制度的要素が国際資本移動に与える影響

推定結果から、金融のグローバル化を進めることで、資本流入が活発になる一方、その効果は良い制度を保有している場合に限定されることを明らかにした。また、制度の質の中でも、官僚の質、法の支配序が特に重要であることが判明した。研究成果は国際学術雑誌 Journal of Macroeconomics に掲載された。

(3) 汚職と金融グローバル化が経済成長に与える影響

理論モデルから、次のことが明らかとなった。汚職の深刻な国では高い税率が科されるため、そのような国で金融グローバル化が進行した場合、経済成長に悪影響を及ぼす。一方で、汚職の少ない国では、汚職の深刻な国から資本が流入するため、金融グローバル化が汚職の経済成長に対する悪影響を軽減する。結果として、経済成長率は高い順に、(i) 低汚職・開放的な金融制度、(ii) 低汚職・閉鎖的な金融制度、(iii) 高汚職・閉鎖的な金融制度、(iv) 高汚職・開放的な金融制度、となることを理論分析から明らかにした。実証分析では、109 カ国のデータを使用し、この結論が実証的に支持されることを示した。図 3 は、金融のグローバル化が経済成長率に与える限界効果が、汚職の水準が増加するにつれて、減少することを示している。研究成果は国際学術雑誌 International Economics に掲載された。

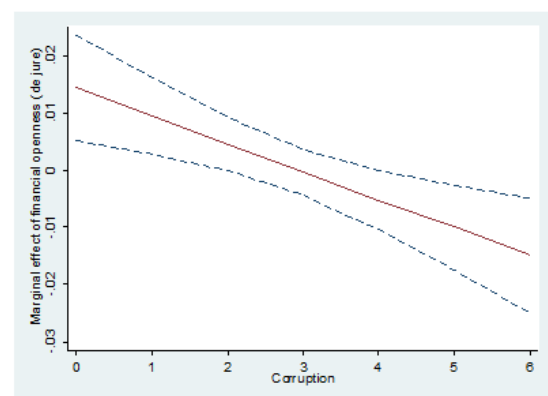


図 3：金融のグローバル化が経済成長率に与える限界効果

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

- (1) Takuma Kunieda, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2014) Corruption, Capital Account Liberalization, and Economic Growth: Theory and Evidence. *International Economics*, 掲載許可済み(査読有)
DOI: 10.1016/j.inteco.2014.03.001
- (2) Takuma Kunieda, Keisuke Okada, Akihisa Shibata (2014) Finance and Inequality: How Does Globalization Change Their Relationship? *Macroeconomic Dynamics*, 掲載許可済み(査読有)
DOI: 10.1017/S1365100512000843
- (3) Hiroki Iwata, Keisuke Okada (2014) Greenhouse Gas Emissions and the Role of the Kyoto Protocol. *Environmental Economics and Policy Studies*, 掲載許可済み(査読有)
DOI: 10.1007/s10018-012-0047-1
- (4) Keisuke Okada, Sovannroeun Samreth (2013) A Study on the Socio-economic Determinants of Suicide: Evidence from 13 European OECD Countries. *Journal of Socio-Economics* 45, 78-85. (査読有)
DOI: 10.1016/j.socec.2013.04.009
- (5) Keisuke Okada (2013) The Interaction Effects of Financial Openness and Institutions on International Capital Flows. *Journal of Macroeconomics* 35, 131-143. (査読有)
DOI: 10.1016/j.jmacro.2012.11.003
- (6) Go Kotera, Keisuke Okada, Sovannroeun Samreth (2012) Government Size, Democracy, and Corruption: An Empirical Investigation. *Economic Modelling* 29 (6), 2340-2348. (査読有)
DOI: 10.1016/j.econmod.2012.06.022
- (7) Keisuke Okada (2012) The Effects of Female HIV/AIDS Status on Fertility and Child Health in Cambodia. *Journal of Asian Economics* 23 (5), 560-570. (査読有)
DOI: 10.1016/j.asieco.2012.06.005

- (8) Hiroki Iwata, Keisuke Okada, Sovannroeun Samreth (2012) Empirical Study on the Determinants of CO₂ Emissions: Evidence from OECD Countries. *Applied Economics* 44 (27), 3513-3519. (査読有)
DOI: 10.1080/00036846.2011.577023

[学会発表](計 2 件)

- (1) 岡田啓介, Corruption, Globalization, and Economic Growth: Theory and Evidence. 広島大学経済学研究会, 2013年4月22日, 広島大学
- (2) Keisuke Okada, The Interaction Effects of Financial Openness and Institutions on International Capital Flows. 13th International Convention of the East Asian Economic Association, 2012年10月20日, Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore, Singapore

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡田 啓介 (Okada, Keisuke)
広島修道大学・人間環境学部・助教
研究者番号: 70633064

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし